

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192800074		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア入間グループホーム		
所在地	埼玉県入間市宮前町9-2		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和7年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流、イベントの充実、ご入居者本位の柔軟なケアや職員の育成に力を入れています。
昨年度より定期的に地域交流会(能登半島チャリティーイベント)を定期的に開催し地域の多くの方にご参加いただいております。また、毎年実施されている地域のお祭りや防災訓練等にも参加しています。
イベントでは毎月、外部ボランティア様のご協力により音楽コンサートやフラダンス教室等が行われています。その他にも工作や運動レクリエーション、おやつ作りなどの調理レクリエーションも行っております。料理等が得意な職員も多く、ご入居者へ楽しみの時間を多く提供が行っています。
社内の教育環境も充実しており、社内資格制度や定期的に開催される研修が行われています。
ご入居者様が望む生活に寄り添い、柔軟なケアが行える環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西武池袋線「入間市駅」北口から徒歩約15分の場所に位置し、周囲には住宅が立ち並び、隣には公園もある恵まれた環境にある、2階建て2ユニットから成るグループホームである。当ホームでは、季節のイベントやレクリエーションに力を入れており、外部ボランティアの協力を得て音楽コンサートやフラダンス教室などを開催している。入居者はこれらの行事を楽しみにしている。昨年度より、定期的に地域交流会(能登半島チャリティーイベント)を開催しており、地域の多くの方々に参加している。また、毎年実施されている地域のお祭りや防災訓練にも参加しており、地域に根付いた施設として運営している。
本社では、しっかりとした教育体制が整っており、職員が研修を受ける機会が提供されている。毎年4月には理念に基づいた目標を掲げ、職員が共通した思いを持ってケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の掲示、新規職員には施設理念やグループホームの役割についての研修を受けている。	法人理念と事業所理念は、施設内の目に付く場所に掲示されており、新規職員は施設理念やグループホームの役割について研修を受けている。新年度には、理念に基づいた新たな目標を掲げ、職員は共通認識のもとで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会の開催や外部ボランティアの協力、自治会主催のお祭りや防災訓練等へ参加している。	昨年から実施している地域交流会（能登半島チャリティーイベント）を開催しており、地域の多くの方々が参加している。また、毎年行われている地域のお祭りや防災訓練などにも参加しており、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会主催の地域清掃や廃品回収の協力や地域の助成金や寄付等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を実施できている。ご家族様等へ報告書を郵送する際にアンケートも送付。様々なご意見をいただき、サービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を実施しており、家族、民生委員、包括支援センターの参加も得て開催している。家族には事前にアンケートを送付し、意見を募っており、会議の際に報告している。頂いた意見をもとに、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	転倒等事故報告を行い情報提供に努めている。市の独自サービスの手続きをご家族様が変わって行っている。	生活保護受給者の入居もあり、担当部署とは定期的に情報交換を行っている。また、報告事項などの情報提供にも努めており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人一人の行動の把握に努め、見守り声掛けを心がけている。身体拘束廃止会議、研修を3ヵ月に1回行っている。	委員会は3か月に1回開催しており、年2回の研修も実施している。研修後には理解度テストを行い、日々のケアを振り返る機会として取り組んでおり、拘束をしないケアへの理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止研修や身体拘束廃止委員会を実施している。日常のケアの中でも不適切なケアに対しては個々の職員へ指導を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時に全スタッフが社内研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には丁寧な説明を心掛けている。説明後もご不明点等はないか確認しご理解頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に関わることは、ご家族様に適宜電話やメールを行い了解を頂いている。また、運営推進会議報告書にアンケート欄を設けている。ケアプランの説明や面会時に個別に対応している。	面会制限がないため、家族の面会時や運営推進会議でのアンケートを通じて、要望や意見を聞いている。要望については、改善できることは速やかに改善するようにしている。また、行事予定を事前に知りたいとの要望があったため、今年は年間行事予定を送付する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を実施。その他、定期的に個人面談を実施。スタッフから提案されたイベントの企画や業務の見直し等を実施。	毎月フロア会議を開催しており、職員は活発に意見を出している。出された提案については、可能な限り見直しや対応を行うようにしている。年2回の個人面談も実施しており、その際にも意見を聞くようにしている。職員の意見を受けて、新たに身体状態に合った車いすの購入も行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価シートの活用。半年に一度評価を実施している。 個々の勤務条件に合わせ、夜勤回数や勤務条件の調整を柔軟に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マイスター制度により各自勉強できる環境が整っている。その他、新人、中途、管理者等階層別の研修も定期的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入間市内のグループホーム会が定期的に開催されており各施設の状況報告や意見交換が行われている。 埼玉県主催の外部研修へも参加。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではこまめな傾聴、他入居者との交流の場を増やす等の施設生活に慣れるよう支援を行っている。ご入居後、1ヵ月目にカンファレンスを実施しケアプランの更新を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、数日でご家族様へ連絡し施設での生活の様子をお伝えしている。月に1度レクリエーション参加の様子等をお写真を郵送している。支援内容やご請求に関するご質問にも丁寧な説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご入居様が望む生活をケアプランに活かしている。また、ご家族様に適宜ご様子の報告とアドバイスを頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てのことを行うのではなく、洗濯や掃除など一人ひとりの出来ることを大切にしている。ゆっくり話をする時間やご入居者様からの要望を柔軟に対応できる環境作りに力を入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会や外出は自由に行える環境となっている。ご面会時にはご家族様とも情報を共有し、ご家族様にも協力を仰ぎご本人の生活を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様から制限がない限り、ご友人等とも自由にご面会ができる環境となっている。	面会制限がないため、知人なども家族の了解のもと自由に面会している。また、家族との外出や外泊も自由に行っている。お孫さんの結婚式に出席された方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の配慮で皆で楽しめる話題を提案したり、レクリエーションを行う。また、入居者様同士のコミュニティを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も、必要時体調の変化がないかご連絡。思い出の写真等があればご家族様へ郵送している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人が希望する生活をサポートさせていただいている。(喫煙者には喫煙スペースを準備する等)	会話が可能な方も多く、日々の関わりの中で要望や意見を聞いている。入居者の要望により、喫煙スペースも準備している。食に関する要望についても、可能な限り対応し、本人の意向をくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの情報やご家族様からの情報、また、地域包括等利用して情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、ご自身の生活リズムやADL等の把握に努めている。また、職員間でも適宜情報の交換を行い、ご自身の自立支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切にした支援を心掛けている。カンファレンスにて、定期的に支援内容の振り返りを行い適切なサービスが実施出来ているか確認を行っている	3か月に1回モニタリングを実施している。家族の要望なども確認しながらカンファレンスで検討し、必要に応じて医療者の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容や生活の様子を介護記録へ毎日残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者からご希望のあったレクリエーションや食事の提供、外出支援等が柔軟に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、音楽コンサートやフラダンス教室などの外部ボランティアを依頼し、ご入居者が楽しんで参加できるイベントを開催できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時は主治医や連携病院の受診が速やかに出来ており、適切な医療の提供が出来ている。往診医が月2回 訪問薬局週1回 訪問歯科週1回 来て頂いている。	往診医が月2回、訪問薬局と訪問歯科が週1回、訪問看護も週1回来ている。希望者には訪問マッサージも提供している。24時間連絡体制を整えており、入居者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックを行い、ご入居様の変化があれば主治医に報告している。薬剤師や訪問看護、訪問マッサージ等とも密に連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時の送迎や情報共有等医療連携を行っている。入院先のソーシャルワーカーや看護師、リハビリスタッフ等と連携を取り退院調整を進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族のご意向も尊重しつつも、特別な医療行為等が必要となる前の段階でご本人に適した施設への移動についても説明を行っている。医師や訪問看護と連携を取り施設でのお看取りケアも可能。	入居時に重度化や終末期の方針を説明しており、身体状況の変化に応じて本人や家族の意向を確認している。希望があれば、医療者とも相談しながら施設で看取りまで対応している。現在も看取りの事例がある。職員も経過を見ながら、その都度話し合いを行い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応マニュアルの掲示を行っている。適宜報告連絡は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や水害訓練を年2回実施。災害時の連絡先や避難場所については掲示を行っている。	入居者も参加して、火災訓練、水害訓練、夜間想定訓練を年2回実施しており、そのうち1回は消防署立ち合いのもとで実施している。地域の避難訓練にも参加し、避難場所までの経路確認も行っている。事業継続計画(BCP)を策定し、必要な備品も備えている。今後は非常食の試食も検討している。	もしもの災害時に備え、備蓄品の入れ替え時期を利用して、食事レクリエーションなどの機会に非常食の試食を行えるよう希望する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの中にもご本人の意思を確認しながら実践している。また、その方の人柄やこれまでの社会的役割を知りコミュニケーションに活かしている。また、羞恥心に配慮し入浴時の同性介助が行える環境にしている。	研修も実施しており、お一人お一人の今まで生活の様子や人柄等も知り、声掛けに活かすようにしている。又入浴時の同性介助が行える環境や排泄介助時にも配慮するよう意識を高く持って対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中からご本人の意向や希望を確認。実現可能なことはご家族様や職員が連携を取り実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者中心のケアを行うよう毎月のフロア会議等に職員へは説明している。また、ご自身の好みを理解し、レクリエーションや行事、日常の生活に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問理美容にてヘアカットを行っている。ご家族と連携を取りその方の好みの衣類やシャンプー、化粧品等を持参して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器拭きなど出来ることはご入居者にも一緒に実施してもらっている。季節の献立やイベント食の実施を行い食事の時間を楽しんで頂いている。	日曜日にはお楽しみメニューを提供しており、入居者の希望によりお好み焼きを作ることもある。可能な方には調理段階から参加してもらい、盛り付けや食器拭きなど、できることを一緒に実施している。季節の献立やイベント食も取り入れ、食事の時間を楽しんでもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分量の記録、一人ひとりに合わせた食事形態(常食～ミキサー)での提供。使用しやすい食器等の準備を行っている。毎日の喫茶の時間にはその方の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科が毎週金曜日に訪問している。その都度入居者様の状態やアドバイスを受けている。毎日の口腔体操や磨き直しを行い清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、適切なオムツやパットを使用している。必要な方には見守り、トイレ誘導等の支援を実施。毎日の排泄状況は記録に残している。	一人ひとりの排泄状況を把握し、適切なオムツやパットを使用している。移動が難しい方にはポータブルトイレを使用しているが、介助が必要な方も日中はトイレでの排泄を基本として対応している。排泄状況は記録し、情報を共有することで、適切な声掛けや誘導ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握し、水分の摂取を促したり、腹部のマッサージを行っている。必要時には主治医と相談し便秘な方には内服による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施。皮膚の状態により清潔を保つため3回に増やしたり、排泄による汚染の際シャワーを行う等清潔を保つよう支援している。また、入浴の際は事前に声かけを行い同意を得てから開始している。拒否の場合は入浴時間を変更する等して対応している。	週2回の入浴を実施している。状況に応じて、必要な方にはシャワー浴なども実施している。入浴時には、本人の好きなシャンプーやリンスを使用するなど、入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を拒否する場合には、時間や日を変更するなど、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の意志に任せている。ゆっくり休んで頂けるよう、室温調整や寝具の選択を行っている。不眠の方に温かい飲み物の提供や傾聴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と連携を取り服薬支援を行っている。薬剤師からは定期的に薬の効果や副作用についての説明がある。介護職員は必ずダブルチェックを行い安全に服薬支援が行えるよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意であったり好みのレクリエーション(歌やトランプ、書道等)を実施している。洗濯物たたみや食器拭き、シーツ交換等のお手伝いも職員と共に実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と買い物や外食、職員とのお散歩やドライブをするなどの外出支援が行われている。	隣に公園があるため、散歩に出かけたり、コンビニへ買い物に行くこともある。テラスを利用した外気浴も実施している。施設敷地内には自動販売機があり、自分で好きなものを選んで買い物を楽しむことができる。また、家族と外出する方もいる。春には花見ドライブを実施する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身のお金は施設の金庫にて管理。数名のご入居者はご自身で少額のお金を管理されている。今年度から敷地内に設置された自販機で飲み物を購入したり、スタッフとスーパーやコンビニで買い物されることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子や孫、ご友人からお手紙が届くことがあり速やかに届けるようにしている。ご自身で読むことが難しい方は隣でお手紙の内容をお伝えしている。定期的にお電話をいただくご家族様もいらっしゃる。取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は毎日清掃し清潔な環境作りを行っている。皆様が好きな音楽を流したり、レクリエーションで作成した季節の装飾品等を掲示している。	共用部は明るくゆとりのあるスペースとなっており、廊下にはソファが置かれている。壁には、レクリエーションで作成した季節の装飾品や植物を掲示・配置している。入居者は思い思いの場所でゆっくりとくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの人柄や日頃のご様子、気の合ったご入居者同士で思い思いに過ごせるよう席を工夫している。廊下にはベンチイスを配置し静かなに過ごせる場所も確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真やテレビを設置して頂き、ご自身のお部屋としてゆっくりすごして頂けるよう支援している。馴染みのある物を置いて頂き、安心して頂ける様工夫している。	居室にはベッド、チェスト、クローゼットが設置されており、入居者は使い慣れた椅子やタンス、テレビ、家族の写真などを持参し、居心地よく過ごせるよう工夫している。清掃は、できる方は職員と一緒に実施し、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心がけ、安心して過ごして頂けるよう支援している。また、ご自身で出来る清掃や片づけはお手伝いをお願いしている。		